



平成25年度

第8回みみらんどセミナー

ことばシリーズ②

- ☆ 実施日時 ☆ 平成25年7月26日（金） 10:00～15:00
- ☆ テーマ ☆ 「聴覚障がいのある子どもの発音指導」
- ☆ 講師 ☆ 筑波大学附属聴覚特別支援学校幼稚部教諭 桑原 美和子 様

第8回みみらんどセミナーの概要をご報告いたします。

午前の講演では、発音指導についてお話をいただきました。教師に求められることとして、指導法は一つではなく、子どもにあった方法を見つけていくことが大切です。発音指導においては、子どもの実態を知り、合わせる、発音に敏感になる、柔軟な姿勢で指導する、定着するまで粘り強く指導することが必要になります。発音を意識し、身につけることで、コミュニケーション面や音韻意識の確立といった効果が期待されます。また、音韻意識の確立により、「あ」とはっきり言うことは難しくても、その子にとっては「あ」であり、「あ」と書くことができるようになります。それが書き言葉につながっていきます。発音指導において、単音を明瞭に発音できることだけでなく、イントネーションやリズム、間など（プロソディ）の発話明瞭度を上げることも大切です。発音要領を気にせず話ができるように、力を高めていくことが必要になります。また、指導者との信頼関係を築き、子どもの食生活や生活態度、知的面、身体面、運動面、言語力、聴覚活用の力、発音器官の発達等、子どもの育ち全般を把握することも必要となります。聴覚障がいのある子どもたちは、聴覚的フィードバックの難しさを抱えています。最大限に聴覚を活用する力を高めるとともに、視覚的、運動感覚的に確認することができる方法を工夫する必要があります。子どもは、求められて出した自分の声が、よい音なのかどうか分からない、また「だめ。」と言われても、どの声がよい音なのか分かりません。視覚的に「○」や「△」で示したり、よい手本を聞かせたりすることで、模倣してくれるようになります。発音をサインで示すのも一つの手立てとなります。子どものつまずきに対しては、その前の段階に戻って指導します。「伝えたい！」と思って話している子どもの思いと発音のつまずきを捉えて、話の内容よりも発音指導を優先すべきかどうかを考えなくてはなりません。敢えて、発音を直さない決断をすることも必要です。しかし、その課題について、いつ、どんな方法でアプローチしていくのかは、必ず考えます。



午後の講演及び演習では、「①声を育てる」「②自然な息づかいを育てる」「③柔軟な動き、自然な動きができる舌、唇、顎を育てる」ために、ゴム風船やストロー、お菓子（ポッキーやえびせん、ミルク煎餅等）等を使った具体的な手立てを教えてくださいました。各音の指導の手順や指導の方法についても詳しく御指導いただきました。

参加者からは、「発音についての具体的な指導法を学ぶことができた。」「担当している子どもの指導に生かしていきたい。」といった感想が聞かれ、有意義な研修会となりました。

